パンタナール通信

南北米福地開発協会　会報　２００９年４月１日　６７号

世界平和教授アカデミー理事会で南米レダ開発の歩みを紹介する柴沼事務局長（熱海、ホテル中田屋にて）

ボランティア文化を花咲かせるために

『パラグアイの国は国の面積と森林伐採の土地の大きさの比較では世界一森林伐採が進んでいる国で、六百十万の人口の内、一日1ドル以下の国民が百十万人もいる国です。

所得水準は千六百ドル近くになるのにそれほどの人が極貧の中に居ることは貧富の格差が大きいということではないかと思われます。

植林をし、その木から換金性のある製品ができればパラグアイの国に大きな影響を与えることになります。』との内容とともに、今まで九年間行ってきたレダ開発の内容に、参加した代表理事の山口彦之東大名誉教授、雨宮東大教授、中村名古屋大学準教授はじめ二〇名近くの学者の方は真剣に耳を傾けてくれました。

その後、夕食の時に、近くにいた教授達からの質問を受け、関心の高さを伺うことができました。

前の席にいた加藤栄一筑波大学名誉教授はレダで歩んでいる日本の方は本当に勇気があり、素晴らしく、良く困難を乗り越えて開拓して来ましたねと慰労の言葉を掛けてくれました。また、隣の席にいた石田教授は自分も一年間、若い時に南米を訪れ、アスンションの内山田ホテルに泊まったことがあるなどと懐かしく思い出を語られ、できればレダにも行ってみたいとのことでした。また、斜め前にいた北海道大学の谷口名誉教授は北海道の中田さんから植樹をお願いされ、植樹を行ったと嬉しそうに話しておりました。

参加した教授との話し合いの中で、ＰＷＰＡの中にも元大使の方が何人もいるので、これほど素晴らしい事をしているのだから日本の外務省に働きかけて、ＯＤＡを引き出す道を開けるようにしたらどうかとの話も出ていました。

今後、ＰＷＰＡに環境対策部門も設けて頂き、協力して頂くことも可能であると感じました。

レダからの報告（3月14日、飯野氏より）

①本部ビル屋根工事開始

しばらく建設が中断していた本部ビル三階上に、瓦屋根を葺く工事が三月七日から始まった。グスタボ棟梁を先頭に親族で固めた請負業者六名が仕事の段取りをすすめ、更に現地労働者五名が資材をまず一階から二階へ、次に順次必要に応じて三階へと運びあげられて行く。この工期は二ヶ月以上かかると思われる。

今まで九年間、単身赴任で続けられてきた苦労のパンタナール開発も、移民を見据えて夫婦で長期滞在が出来るよう部屋割りも考慮されている。二千年に建てられた旧来の食堂・集会室が、滑走路上で危険なため、この建物一階に移るという前提で既に壊されて久しい。

仮食堂として修練所が使われているが、毎日のことだけに距離が遠すぎ不便を来たしているだけに、完成までにはまだまだ時間がかかるが、早く落成式を迎えたいものである。

②自然牧場への道、パルマの伐採始まる

第四の橋の先に新たにコラール（牛集積場）、牧童小屋、アランブレー（柵）で囲った二十ｈａの牛の夜泊場所、五百ｈａｘ二の自然牧場の形成などを行うための道路作りが始まり、切っても切っても群生するパルマ（ヤシの木）を伐採し、支流沿い奥地への道が作られる。川の水位は既に上昇して来ているため、工期が限られるが、まだ三月は雨季が明けていないだけに、空を見つめながらの突貫工事が日夜展開している。

ニーム搾油実験成功

１月からニームの実の収穫が進められて来たが、五〇ｋｇを超えたため、中田所長が陣頭でニームの種から搾油を試み、見事成功した。所長は、「漆にかぶれたり、虫に刺されて赤くはれたりした時に、この油を塗ると、非常に効果があることが分かった」と自らの体験を感動的に証された。成木からは一本あたり、五〇ｋｇの収穫が可能と言われているだけに、今後植樹されたニームから、相当量の実の収穫が予想され、商品開発が急がれている。

様々な花が、美を競う

一月、二月は比較的木々の葉が茂って花が少なかったレダであるが、三月になると様々な花が咲き始めている。

心を和ませること大であるが、これは百聞は一見にしかずである。

高知出身の金子夫妻がレダに三月初め、到着しました。

金子氏はすでに九年間、レダに常駐し、ジェネレーターの管理、レダの機材の修理、管理、ならびにボートの整備等、一手に技術部門の責任を負って来ました。

また、現地の労働者に技術を教えて来ました。

夫人は今回、初めてのレダの訪問で、三―六か月の計画で滞在し、レダのメンバーの生活を補佐して下さります。金子夫妻は長い間、アフリカにて青年指導と奉仕に携わり、世界の人々のために尽くして来られました。

第九回ピースライフセミナー開催（5月4日ー5日）

・・プログラム・・

開催日時　五月四日（祝・月）～五月五日（祝・火）

五月四日（祝・月）

九時三０分　受付開始

開会 十時

講義①　「人生の目的と価値」柴沼邦彦先生

講義②　「罪悪の根拠について」

講義③　「新しい歴史観Ⅰ」

活動報告「パンタナールの開発と保全」高津啓洋先生

NPO地球の緑を守る会理事長

午後九時　終了

五月五日（祝・火）

九時　講義④　「新しい歴史観Ⅱ」

午後一時　講義⑤　「Rev.Moonとの出会い」桜井設雄先生

講義⑥　「南北米福地開発協会の活動について」

柴沼邦彦先生

☆開催場所　川崎市民プラザ二階セミナールーム

第八回セミナー参加者の感想

『今回の講義は、本当にわかりやすく、短時間でいろいろ分かりやすい例を交えていただいて、本当に良かったと思います。休憩や開始終了時間も丁度良く、無理なく、リラックスして受けることができました。プログラムにない自己紹介やく歌を歌ってくれたりと、楽しい時を過ごしました。また、いろいろな方との出会いも、驚きと感動でした。こんな余裕のある、心のリラックスする、ですけれども内容は濃い、こんなセミナーがもっとあればいいと思います。また、最後の「南北米福地」のコマで、コツコツと、目に見えない形であったとしても、人のために努力するということは、とても大事で、それは、必ず実るというのがとても印象に残りました。』

『初めて参加させていただき感謝しています。レダの報告は本当に驚きました。今までの諸先輩のご苦労に感銘しました。支援された多くのみなさんも、いろいろな犠牲があったかと推察されます。遅まきながら、今後、できる限りのご協力というより自分のこととして行動を起こしていくつもりです。』

第九回国際協力青年奉仕隊参加者募集開始！

期間　〇九年八月二五日
　　九月十日
活動地域　パラグアイ国
　　レダ近郊
活動内容　インディヒナ村
　植林、文化交流、エコツアー
参加資格　一八歳ー二五歳
参加条件　小論文
　（参加の動機及び将来の夢）
応募人数　八名
参加費用　十五万円

『今まで何回か、青ボ隊の活動に引率者として参加し感じることは、多少の苦痛や困難を伴うものがあったほど、ボランティア活動の意義や価値に深く係わることが出来ると思う。自分が生まれ育ち慣れ親しんだ当たり前のことが、実はそうではなく、世界にある様々な現実を自らも痛みや、苦痛を持って共有体験してみる。これが青ボ隊活動には不可欠な要素であることを今回も痛感した。三石隊長総括より』

支援のお願い

青年奉仕隊の活動は皆様の支援で行われて来ました。
第九回青年奉仕隊も皆さまの温かい支援でなされます。
左記の口座に本年もよろしくお願いします。

本年は一昨年、昨年と行ってきた植林活動をレダ近郊のインディヒナの村で行います。木が順調に育ち、村の人々に希望を与え、温暖化防止にも貢献しております。

郵便口座
一〇一八〇ー七七六八〇四七一
代表　柴沼邦彦

第八回国際協力青年奉仕隊に参加した坂田浩美さんがボランティアスタッフをしている中高生のグループにレダの活動を柴沼事務局長が報告（名古屋フォーラムにて）

レダのように自然がたくさんあるところに行ってみたいと思いました。レダで穴を掘ったり、木を植えたりして頑張っていたのでパラグアイの人々に認められていったのですごいと思いました。（高1　男子）

厳しい環境でも、心を込めて頑張れば周りが答えてくれると知ったので、これからはもっと人の為に神様の為に頑張っていきたいです。（中3　女子）

自分たちも世界の為になることをしなくてはいけないと思ったし、自ら困難なところに行くっていうのはすごいことだなぁと思った。その土地を愛して投入したからこそ、受け入れてもらえたと思うから、本当にどんなことを言われても愛して投入したいと思います！（中2　女子）

第九回国際協力青年奉仕隊への参加希望者は事務局に連絡し、所定の書類を受け取ってください。五月末までに参加希望者の小論文と履歴、そして紹介者の推薦文を添えて事務局に送ってください。
六月十五日に参加者の発表を致します。

ピースライフセミナーの開催案内
日程　五月四日、五日
場所　川崎市民プラザ
参加人数が会場の関係で五十名ですので参加希望者は早めに事務局に申し込みください。

南北米福地開発協会四月度の予定
環境セミナー
四月十九日　南北米事務局にて
　午後二時より
（費用　二千円資料代含む）

南北米福地開発協会　事務局
〒二一三ー〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三ー十一ー十五
岩崎ビル四F
電話　〇四四ー八二九ー二八二一
Fax　八二九ー二八二〇
会費納入　郵便口座
一〇一八　〇ー七七六八〇四七一
代表　柴沼邦彦
E-MAIL　office@asd-nsa.jp
ホームページ　http://www.asd-nsa.jp